



DX戦略2024

有限会社 エスランドル

2024年2月14日

取締役会 承認

1. DX取組宣言



私たちの会社「エスランドル」は、フランス語の造語で「希望に向かう」という意味があります。

畑にでてみると、海辺のほうから気持ち良い風が吹いてきます。

澄んだ空気、青々とした空、遠くで聞こえる鳥の声・・・大自然の恵みに見守られ、私たちが存在していることを感じる瞬間です。そんな大自然に恵まれた環境の中で私たちは野菜を育てています。この野菜がどんな旅をしてお客様のもとに届けられるのか、想いをはせています。

しかし、私たちはこれまで日本の「食」を支えてきた農業の基盤が揺らぎつつあることを生産している現場において一番感じています。担い手不足、耕作放棄地の増加、資材高騰、農業所得の減少。様々な課題は待ったなしの状況です。また、素材そのものの風味を活かした加工食品や生産者の想い・顔が見える加工食品も減少しており、私たちが大切にしてきた食文化は大きく変わりつつあります。これまで当たり前口にすることができていた「食」を守るためには、一つずつ課題に向き合わなければなりません。私たちは知っています。毎日の食事が、5年後、10年後のカラダを作ることを。大切な家族のカラダを作ることを。だからこそ、「食」の大切さを皆様に伝えていきたいのです。

どうしたら野菜や農産物が健やかに育つのか。

どうしたら野菜や農産物の栄養素や色味、風味を最大限に活かせるのか。

どうしたら食の魅力をお客様にとどけることができるのか。

そんなたくさんの「どうやったらできるのか。」に対して、斬新なアイデアで、革新的なデジタル技術やデータを駆使することによって課題解決のために行動し、お客様の期待を超える「食」と「農」の新しい提案をおこなっていきます。また、エスランドルは商品だけでなく、人とのつながりを大切にします。パートナー企業とお互いに価値を認め合い、手を取り合って共に成長します。お客様に様々な切り口で食の大切さを伝え、感動をお届けします。エスランドルのDXにご期待ください。

お客様と共に感動を分かち合いながら、絶えず挑戦し続け、希望に向かって歩み続けます。

有限会社エスランドル 代表取締役 上釜 勝

2. 経営理念・経営ビジョン

【経営理念】

食の可能性を探求し、お客様に感動をお届けします。

【経営ビジョン】

私たちは鹿児島を中心とした地域の農産物や地域資源を活かして「楽しくて、おいしくて、笑顔あふれる食の場面」をお客様に提案することにより、農山村発デジタルイノベーションを創発し、付加価値ナンバーワン企業になることを目指します。

3. DX戦略

私たちエスランドルは、「楽しくて、おいしくて、笑顔あふれる食の場面」をお客様に提案することにより、付加価値ナンバーワン企業になるために、以下のようなDX戦略を立案しDXを推進してまいります。

【戦略①】 農産物栽培技術及び農業経営力の向上

どうしたら野菜や農産物が健やかに育つのか。農産物の栽培技術及び農業経営の向上をデジタル技術やデータ活用によって探求します。

【戦略②】 農産物の栄養素やおいしさの追求

どうしたら野菜や農産物の栄養素や色味、風味を最大限に活かせるのか。農産物の栄養素やおいしさの向上を図るためにデジタル技術やデータを活用します。

【戦略③】 食の魅力の情報発信

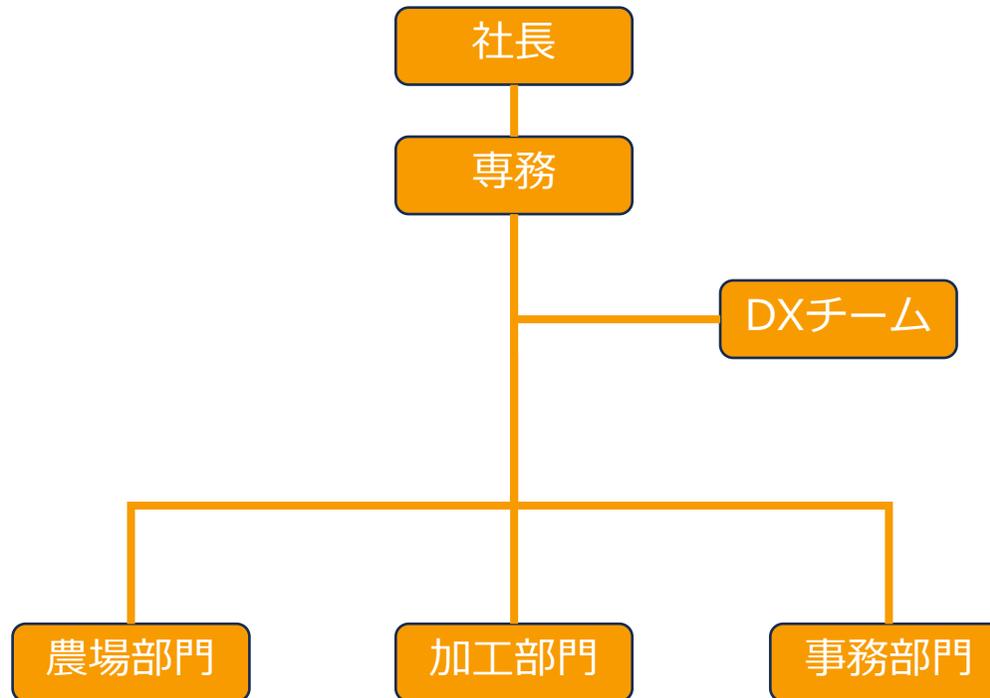
どうしたら食の魅力をお客様にとどけることができるのか。地域の食・農に関する情報発信をデジタル技術を駆使して強化します。

【戦略④】 食と農の大切さをつなぐネットワークづくり

どうしたら、私たちのビジョンや取り組みに共感してくれるパートナーとつながることができるのか。展示会や商談会の出展によるリアルの交流とインターネットを駆使したデジタル技術による交流を促進し、パートナーとの連携による価値創造を目指しビジネス創発を実現します。

4. DX戦略推進体制

私たちエスランドルは、社長を中心とした「DXチーム」を設置し、定期的な進捗確認を行いながらDX戦略を実行します。また、当社に必要なデジタル人材の育成に努めます。



5. デジタル技術及び環境整備

私たちエスランドルは、DXを推進するためにすでに導入している既存システムの見直しを定期的を実施するとともに、新規技術の導入も積極的に行い、当社のデジタル利用の環境の整備を行っていきます。そのために、毎年売り上げの1%のデジタル投資を実施していきます。

6. 数値目標 (KPI)

私たちエスランドルは、経営ビジョンやビジネスモデルの実現のためにDX戦略を立案し、以下のような数値目標を掲げ日々の仕事の中で着実にDXを推進してまいります。

戦略	取組内容	期限	目標値
戦略① 農産物栽培技術及び農業経営力の向上	①農産物生産現場のデジタル化とデータ活用 <ul style="list-style-type: none"> 直進アシスト付きトラクターの導入によるスマート農業の実施 管理ソフトの導入による地力、雑草、収穫量のデータ取得と管理の実施 ②加工現場のデジタル化 <ul style="list-style-type: none"> 衛生管理のペーパーレス化・充填や包装の自動化 ③経営や営業力の強化 <ul style="list-style-type: none"> クラウド版財務会計システムの導入による事務作業の効率化 営業情報の可視化及び分析による営業力強化 	①2027年に導入 ②2027年まで ③2025年まで	直進アシスト付きトラクター及び管理ソフトの導入と分析の実施 ペーパーレスを50%完了 クラウド版財務会計システムの導入
戦略② 農産物の栄養素やおいしさの向上	①加工機械の自動化 <ul style="list-style-type: none"> 乾燥機使用中の温度や湿度、乾燥温度等の取得と稼働の自動化 加工品の加工方法による栄養価・色味や風味のデータ化と分析 	①2027年まで	乾燥機使用中の温度や湿度、乾燥温度等のデータの自動取得
戦略③ 食の魅力の情報発信	①ホームページやSNS及び紙媒体での情報発信 <ul style="list-style-type: none"> 食と農の最新情報を発信（情報を知りたい消費者に必要な情報を効率よく届ける。） 食文化を国内外に向けて発信し、和食を次世代に継承する 	①2027年まで	ホームページやSNS及び紙媒体による情報発信 4件/年
戦略④ 食と農の大切さを つなぐネットワークづくり	①自社の取組に共感するパートナーとの連携による価値創造 <ul style="list-style-type: none"> アタラシイものや体験の応援購入サービス「Makuake（マクアケ）」等で自社の想いや取組を発信する 商談会への参加（リアルな交流とデジタル技術を駆使した交流） ②地域や異業種との「衣・食・住」ネットワークづくり <ul style="list-style-type: none"> 地域の健康相談や健康教育 電化製品開発チームや衣、住メーカーなど 教育現場 	①2025年まで ②2027年までに	マクアケにおける出店を完了する ネットワークづくり 3件/年

7. 実務執行総括責任者（社長）によるDX推進メッセージ

はじめまして、有限会社エスランドルの上釜 勝（かみがま まさる）です。

当社の社名「エスランドル」は、フランス語の造語で「希望に向かう」という意味があります。

弊社は2004年に設立しました。私は、もともと農業1本でやってきたわけではなく、かつては、建築設計や空間プロデュースの仕事をしていました。事業も順調に拡大していた矢先、世界中が金融危機に直面したリーマンショックを経験しました。仕事も激減し、苦境に立たされた時、私を元気にしてくれたのは「食」でした。「食」のありがたさと、今後も変わらず「食」を大切にしていきたいという思いから農産事業を立ち上げることになりました。その後、私たちは先代から営んできた農業の技術を引き継ぎ、さらに、農産加工の技術を自らの手で培ってきました。

そして、今、その大切な農業、食の存在価値が揺らぎ始めていると感じています。

「食」は生きる上でなくてはならないものです。生きるために必要なエネルギー。体の成長のために欠かせない栄養素。健康の維持・増進に関わる生体調節機能。そして、おいしさや笑顔、コミュニケーション、食文化。

いつの時代も「食」には人を元気にして笑顔にさせる力があると信じています。この原点を忘れずに、これから新しいデジタル技術を活用し、現場のイノベーションやサービスを自ら創出しお客様に届けてまいります。

そして、私がもう一つ目指したいことは、新しいことに情熱をもって皆で取り組んでいくことです。新しいことに挑戦することは時に不安も付きまとうものです。

しかし、かつて移動手段は動物から馬車、車や新幹線と進歩をとげたように、時代に合わせて変革することは未来を切り開くことにつながると信じています。

今の非常識が未来の常識になりえるのです。勇気をもって未来と希望に向かっていくために、今回、私たちの目指すべき姿と取り組みをDX戦略にとりまとめました。興味を持ってくださった方はぜひお声がけください。一緒に希望をもって新しいことに取り組みましょう。

2024年2月14日

有限会社 エスランドル

代表取締役 上釜 勝

8. セキュリティ

私たちエスランドルは、情報セキュリティ基本方針をHPに公表し、SECURITY ACTIONの二つ星宣言を行い、社内の情報セキュリティの体制を整備して、重要な情報資産の保護に努めております。

9. DX推進指標 自己診断フォーマット

私たちエスランドルは、DX推進指標 自己診断フォーマットを作成し自社の現状を把握したうえで、今後のDX推進に努めてまいります。